

無料公開セミナー

「弁理士短期合格法を伝授します」

1. 短答式筆記試験合格法

(1) 短答式筆記試験の特徴・概要

＜参考①＞試験概要

試験日	5月中旬～下旬（平成27年の日程は未定）
試験科目	特許・実用新案法：20問 意匠法：10問 商標法：10問 工業所有権に関する条約：10問 著作権法・不正競争防止法：10問
出題形式	5枝択一：マークシート方式（ゼロ解答は採用していません）
出題数	60問
試験時間	3.5時間
合格基準	満点に対して65%の得点を基準として、論文式筆記試験及び口述試験を適正に行う視点から工業所有権審議会が相当と認めた得点以上であること。 ※平成27年の試験より、科目別の足切り点が導入されることになった。

＜参考②＞過去5年の短答式試験の状況

	受験者数	合格者数	合格率	合格基準点
平成22年（2010年）	6,582名	899名	13.7%	39点
平成23年（2011年）	6,377名	1,934名	30.3%	39点
平成24年（2012年）	5,255名	1,374名	26.1%	37点
平成25年（2013年）	4,603名	375名	9.2%	39点
平成26年（2014年）	4,585名	505名	11.8%	39点

(2) 免除制度について

Point

短答式試験に1度合格すると2年間短答式試験が免除される

(3) 試験制度の改正について

Point

科目別の足切り点が導入される。

(4) 短答式筆記試験を体験してみよう

《平成 23 年度 弁理士試験 短答式筆記試験》

【問 15 枝 2】

2 二以上の審判において、一方の当事者が同一であっても他方の当事者が異なる場合には、審理の併合をすることはできない。

(参考資料) 特許法第 154 条 1 項

当事者の双方又は一方が同一である二以上の審判については、その審理の併合をすることができる。

(5) 短答式試験短期合格法 3 箇条

①

②

③

2. 論文式筆記試験

(1) 論文式筆記試験（必須科目・選択科目）の特徴・概要

＜参考①＞試験概要（必須科目）

試験日	6月下旬～7月上旬（平成27年の日程は未定）
試験科目 配点	特許・実用新案法：200点満点 意匠法：100点満点 商標法：100点満点
試験時間	特許・実用新案法：120分（答案用紙2枚作成） 意匠法：90分（答案用紙1枚作成） 商標法：90分（答案用紙1枚作成）
法文貸与	論文式試験の際、弁理士試験用法文集の貸与有
合格基準	得点(※)の合計が、満点に対して54%の得点を基準として工業所有権審議会が相当と認めた得点以上であること。ただし、47%未満の得点の科目が1つもないこと。

＜参考②＞試験概要（選択科目）

試験日	7月下旬（平成27年の日程は未定）
試験科目	6科目のうち選択する1科目：100点満点
試験時間	90分（答案用紙1枚作成）
合格基準	科目の得点（素点）が満点の60%以上であること

※「得点の算出方法」

受験者の素点（採点を行った試験委員がつけた点数）から算出される偏差値（採点を行った試験委員ごとに算出）が得点となります。

＜参考③＞過去5年の論文式試験の状況

	受験者数 (必須科目)	受験者数 (選択科目)	合格者数	合格率
平成22年（2010年）	3,093名	897名	822名	25.7%
平成23年（2011年）	2,988名	927名	715名	22.9%
平成24年（2012年）	2,851名	846名	837名	28.3%
平成25年（2013年）	1,979名	536名	490名	23.5%
平成26年（2014年）	1,263名	319名	357名	27.2%

①必須科目について

②選択科目について（試験制度改正）

（２）免除制度について

Point① 論文式試験の必須科目に１度合格すると２年間必須科目が免除される

Point② 論文式試験の選択科目に１度合格すると永久に免除される

Point③ 選択科目は試験制度の改正が実施され、科目数が大幅に減少する

(3) 論文式試験を体験してみよう

《平成26年度 弁理士試験 論文式筆記試験（意匠法 問題Ⅰ）》

【問題Ⅰ】

甲は、自ら机に係る意匠イを創作し、その机をビジネスショーで展示した。その後、甲は、意匠イ及びこれに類似する意匠ロについて、意匠登録を受けようとしている。

一方、乙及び丙は、共同で机に係る意匠ハを創作し、前記ビジネスショーの開催後であって甲の意匠登録出願の日より前に意匠ハに係る意匠登録出願を行った。なお、意匠ハは、意匠イには類似せず、意匠ロに類似するものとする。

これらの事実を前提として、以下の各設問に答えよ。

- (1) 甲が、意匠イ及び意匠ロに係る意匠登録出願を行う際に留意すべきことは何か、理由とともに説明せよ。
- (2) 甲は、意匠イ及び意匠ロについて意匠登録を受けることができるか、また、乙及び丙は、意匠ハについて意匠登録を受けることができるか、それぞれ理由とともに説明せよ。
- (3) 甲が、意匠ロに係る机を製造販売しようとする場合の留意すべきことは何か、理由とともに説明せよ。

(50点)

(4 論文式試験短期合格法 3 箇条

①

②

③

3. 口述試験

＜参考①＞試験概要

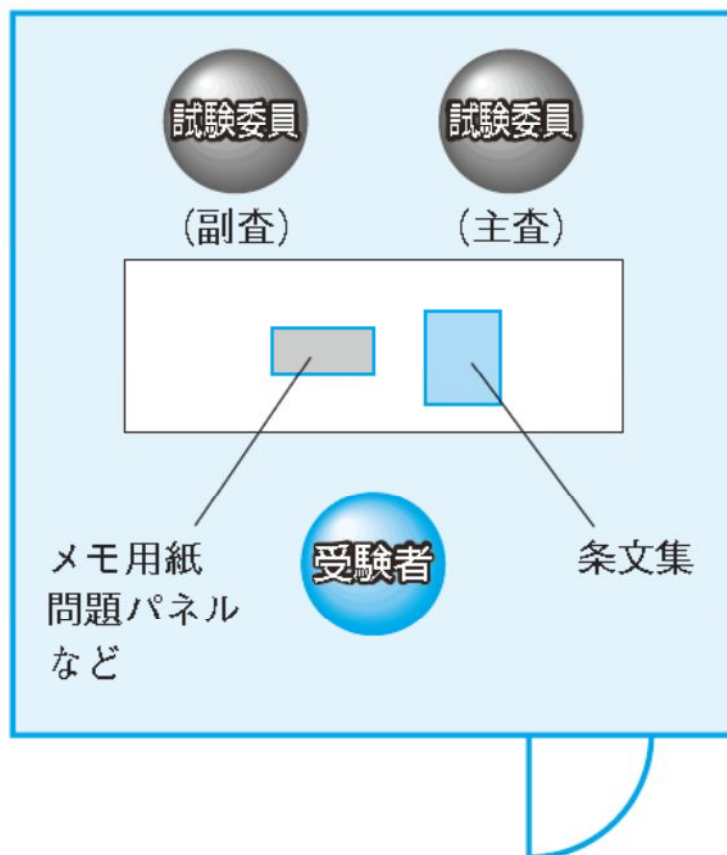
試験日	10月中旬～下旬（平成26年は現時点で未定）
試験科目	特許・実用新案法 意匠法 商標法
試験時間	各科目とも10分間
試験方法	面接方式 受験者が各科目の試験室を順次移動する方法により実施します
合格基準	採点基準をA、B、Cのゾーン方式とし、合格基準はC評価が2つ以上ないこと

＜参考②＞過去5年の口述試験の状況

	受験者数	合格者数 (口述試験)	合格率
平成22年（2010年）	1,048名	735名	70.1%
平成23年（2011年）	1,006名	675名	67.1%
平成24年（2012年）	1,134名	773名	63.4%
平成25年（2013年）	825名	715名	81.7%
平成26年（2014年）	485名	385名	74.6%

※合格者数は「口述試験」の合格者数となり、「工業所有権法免除者」は除きます。

＜参考③＞試験会場のイメージ図



(1) 口述試験の特徴・概要

(2) 口述試験短期合格法 3 箇条

①

②

③

渋谷校・通信講座 担当講師



入門・短答式・論文式試験対策

小松 純 講師

PROFILE

2000年弁理士登録。現在は特許事務所を経営。2001年より弁理士講座を担当。TAC(Wセミナー)弁理士講座専任講師として教壇に立つ。

★私の講義の特徴3箇条

① 折れない心を作る

最終的に合否を分けるのは「受かりたい!」という気持ちです。本試験日にあわせて心技体をバランス良く育てていきます。

② 知識を磨く

弁理士試験では、知的財産法に関する知識が問われます。合格に必要な全ての知識を伝授します。受講生全員を合格レベルまで引き上げます。

③ 全ては健康な体から

仕事・勉強・遊び。全てにおいて健康管理は重要です。栄養学の見地から実践的な話をします。ご期待ください。

新宿校 担当講師



入門・短答式・論文式試験対策

湯浅 竜 講師

PROFILE

2009年弁理士試験合格。2011年弁理士登録。論文講座(必須科目、選択科目)を主に担当。選択科目の著作権法では、従来まで体系化されていなかった、著作権法論文の書き方を「1+9パターン」にパターン化し、既存の学習方法に比べはるかに効率の良い学習方法を確立。「試験合格」を最優先に考える講義を実践。

★私の講義の特徴3箇条

① 最小の労力で最大の効果を

私の講義のスタイルは一言でいえば「効率よく学ぶ」です。貴重な時間をTACに割いて頂く以上、最小の労力で最大の効果が発揮できる講義を実施致します。

② 合格への最短ルートを示します

難関試験である弁理士試験は学習すべき事項も膨大です。短期で合格するためには、優先順位の高い事項から理解していく必要があります。合格までの最短ルートを示すのが私の講義の目的です。

③ 明快な講義

わかりやすさを重視した、明快な講義を行います。複雑な法律も、問題なく理解することができます。法律の素養がない方であっても安心して下さい。

八重洲校 担当講師



基礎・短答式試験対策

酒井 俊之 講師

PROFILE

福島県出身。慶應義塾大学工学部物理情報工学科卒。慶應義塾大学大学院基礎理工学専攻修士課程修了。2003年弁理士試験合格。2004年弁理士登録。同年、創成国際特許事務所入所(2008年、福島事務所開設にあたり所長に就任)。2004年より、TAC(Wセミナー)弁理士講座専任講師として教壇に立つ。2009年日本弁理士会研修所継続研修企画運営部副部長(~2012年)。

★私の講義の特徴3箇条

① 講義を受けるメリット

基本となる法律事項を正しく理解し、使いこなすことができるようになります。

② 講義の特徴

講義の中では、基本となる法律事項の理解に立ち返り、正しい法適用のプロセスを丁寧に解説します。

③ 合格及び将来のメリット

結果として弁理士試験に合格するのはもちろんのこと、将来、知財のフィールドで活躍するために必要な知財マインドを養うことができます。

八重洲校 担当講師



論文式試験対策

加曽利 正典講師

PROFILE

大学卒業後大手電機メーカーに就職し、SEとしてシステム開発を担当。SE時代から弁理士試験の勉強を始める。

2007年特許事務所に転職し、現在に至る。2008年弁理士試験合格。同年よりTAC弁理士講座専任講師として教壇に立つ。体育会系出身だが、意外と涙もろい。

★私の講義の特徴3箇条

- ① **弁理士試験の学習で「今」必要な内容をお伝えします！**
弁理士として身につけておくべき教養はたくさんあります。
でも、「今」必要でないことは、弁理士試験に合格してから学習しましょう。
「今」学習すべき内容をお伝えします。
- ② **個々の弱点の「気付き」をお手伝いします！**
受験生の弱点は、人それぞれ。様々な視点から学習・復習方法を伝えていきます。
「そういう考え方もあるんだ！」から「気付き」を得て下さい。
- ③ **やる気には「やる気」で応対します！**
最後はやる気。受験生の皆さんのやる気には、それ以上の気持ちで応えます。
最後まであきらめず、一緒に合格まで突き進みましょう。

梅田校 担当講師



基礎対策

北口 里英講師

PROFILE

大阪市立大学工学部卒業。メーカーでの開発職を経て、現勤務。2013年よりTAC弁理士講座専任講師として教壇に弁理士登録。常に受講生に寄り添い、疑問点・不安な事を一緒にしていく姿勢には定評がある。

★私の講義の特徴 3 箇条

① 「大筋」「目的」を意識します。

理解をし易く且つ覚えやすくするために、「大筋」と「目的」とに着目し、必要事項を整理して進めていきます。

② 「勉強の進め方」「スケジュールの立案・確認・軌道修正」のお手伝いをします。

講義の受講後は、知識として定着させる学習が個々人に必要となってきます。

そこで、その学習のための勉強方法やスケジュールの立て方等を講義で紹介するとともに、スケジュールの確認・軌道修正等をお手伝いします。

③ 「対話」も重要視します。

最後まで走り切るには、モチベーションは重要な要素です。しかし、その維持は意外と難しいものです。

そこで、個々人との対話から、モチベーション維持・アップにつながるアドバイスを適宜行っていきます。